

定時制の新学期

仮説実験授業研究会 丸山秀一（北海道）

札幌たの授サークル用レポート

2001.4.23

定時制はいつも転入編入転籍転出退学と生徒の異動がたくさんあります。今年も去っていった生徒さんたちがいた一方で、新しい生徒さんたちを迎えました。

南城健太（仮名）君は25歳。仕事をしながら高卒の資格を得るために定時制に入学した1年生。彼は大学入試検定試験にも挑戦していて、「それに合格したら高卒の資格は必要なくなるので退学する」とっていました。そして夏に行われたその試験に、見事一発で合格しました。

[質問]

検定に合格した彼はどうしたでしょうか。

予想

- ア すぐに退学した
- イ そのまま在籍を続けたが学校に来なくなった
- ウ ふつうに学校に来ていた

彼は、なぜかその後も学校にふつうに登校してくれました。そして、授業でもいつも張り切って活躍してくれました。ボクは不思議に思っていたのですが、学年末試験に彼の気持ちが書いてありました。

[質問]

彼が退学しなかった理由はなんだったでしょうか

予想

- ア やはり高卒の資格も欲しくなったから
- イ 学校がたのしくなったから
- ウ 授業を受けたかったから
- エ そのほか

・退学者

思えば4月に定時制に入学してから1年が過ぎようとしています。時の流れは本当に早いものだなあと感じます。

さて、昨年8月に行われた大検に合格したので高校に行く必要はなかったのですが、なぜか今日まで在籍しています。その理由は化学や国語など、ほかの高校では、めったにお目にかかれない(?)授業からだったと思うのです。

化学においては、ビンゴゲームから始まり、教室の明かりを消しての実験、そして爆発(笑)のりやはさみを使っての原子カード作り。これはもしや工作では(?)と思わせるようなたのしい時間を過ごさせてもらいました。一言で言えば、「みなさま!もっともっと理科を好きになってちょーだい」的レクチャーだったと思います。

南城健太

そして彼は1年生を修了して退学していきました。

(国語の担当もボクと話が合う生徒中心に授業を考えてくれる人だったのです。)

・転校生

定時制には毎年，全日制からの転校生がやってきます。みんな前の学校でうまくいかなくて，定時制に来てくれた人です。和人君（仮名）もそんな一人です。

[質問]

さて授業していると，和人君は，3回続けてみんなと違う予想を選びました。どうも，誰も予想していない選択肢をわざと選んでいるみたいです。さて，みなさんならこんなとき，どうしますか。ボクはどうしたと思いますか。

予想

- ア 気にしないで授業
- イ 注意する
- ウ ほめる
- エ 予想の立て方の説明をする
- オ そのほか

ボクはほめてあげました。

「みんな、カズがきてよかったね。みんなとおんなじだったらつまないしね。そして世の中は、違うことを考える人間がいるから進歩するんだよね。科学の大発見だって、そうだよ。みんながこれが正しいと思っていることが間違っていたときに、違うことを考えている人間がいれば、社会はまたそこから進歩していけるんだよ。」

みんなもウンウン。そして彼も、とてもうれしそうに聞いてくれました。

[質問]

さて問題です。その後の「問題」で彼はどうしたでしょう。

予想

- ア みんなと違う予想を選び続けた
- イ そんなことはない

その後の彼の予想は、みんなと同じだったり、違ったり、つまり自分で考えて予想してくれるようになったのでした。別にそれを意図した訳じゃないけど、うれしかったな。きっと「間違えてもいいんだ」というのをわかってくれたんだなあって思って。

・新入生

今年の1年生はとっても元気。最初の授業で教室に入っていくなり、「まってました」との声。そしてどんどん話しかけてきます。というのも彼らのほとんどが、「体験入学」のときに来て、ボクの授業を見てくれたひとたちなのです。それで気に入ってくれたみたいです。

いつもなら「みんな理科が嫌いでしょ。でもね、そういうひとのほうが、本当は理科の才能があるんだよ」というように進めてゆく授業も、「理科が嫌いな人いる？」と聞いたら、「理科好きー」との合唱にガクッ……。そしていつもは「誰か読んでくれる人いる？いない？じゃあ・・・」といてシーンとなったところで「ボクが読みます」といって笑いを取るところが、「読んでくれる人？」といたら、生徒さんが「はい!!」と読んでくれました。そして、「たのしかったー。次の時間も、先生の授業にしよう！」だって。

・留年したひと

さて元気な新入生のクラスには、留年したフタエさん(仮名)とヤスコさん(仮名)も混じっていました。彼女たちは、去年の途中、学校から足が遠のいて休学した結果、留年したのです。彼女たちは、去年と全く同じ授業を新入生のみなさんと受けているわけです。彼女たちは、どんな感想を書いてくれたでしょうか。

予想

- ア 去年と同じでつまらない
- イ 去年と同じでたのしい
- ウ 去年と同じだがたのしい
- エ 感想はなし
- オ そのほか

「たのしさ度 5 (とてもたのしかった) 昨年と同じことをやったことがたのしかった。」ヤスコ

「たのしさ度 5 (とてもたのしかった) 実験が全く変わらないところがたのしかった。」フタエ

うれしいでしょ!?

ここの定時制には、校則らしきものがありません。全日の高校からきた生徒さんがたのしそうに話してくれました。

「全日では、頭髪玄関指導というのをやっていて、茶髪だと帰されるの。だから学校をさぼりたいときは、よく茶髪で行ったよ。」

授業をたのしんでくれる生徒さんたちを見ていると、ふつうの全日制の高校にある規則やら脅しのたぐいは、必要ないのではないかと思えてなりません。

学校は、生徒さんたちと教師がいて、たのしい授業ができれば、まずそれでいいのじゃないかなあ・・・。